

野研びより

水生生物編 1号

野外生物生態調査研究部 昆虫班

2015年6月



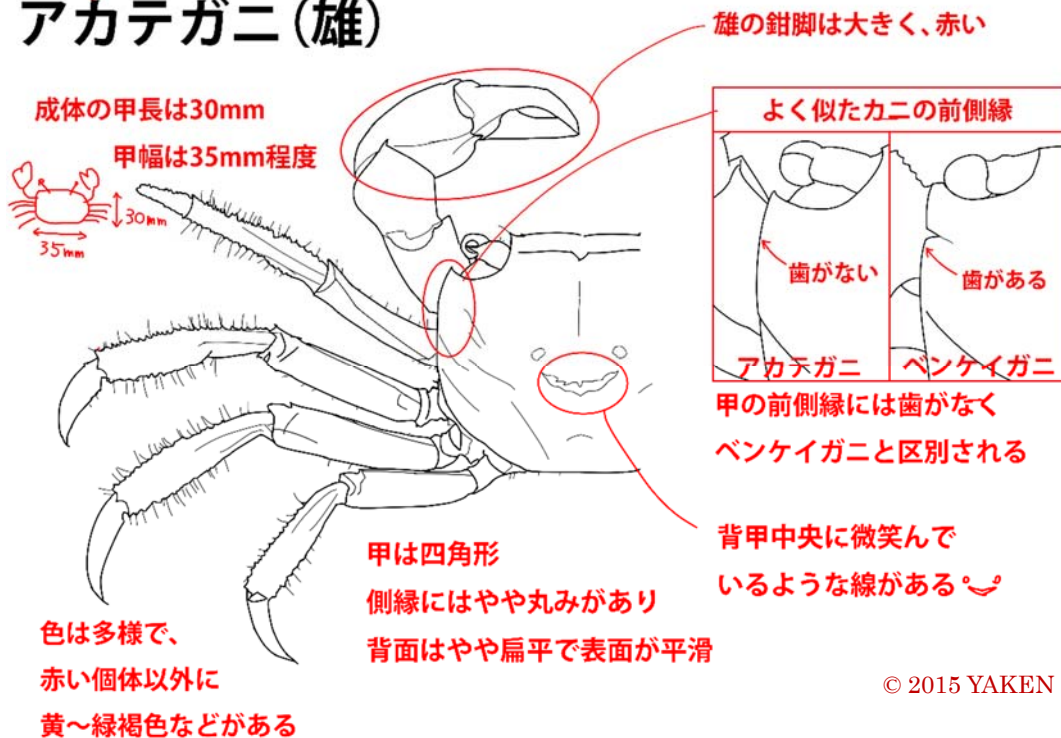
図1. アカテガニ (*Chiromantes haematoc* heir) 十脚目 ベンケイガニ科 アカテガニ属 (2015年6月熊野で撮影)



図2. アカテガニ (2015年6月加江田川付近の田園地帯で撮影)

【形態的特徴】

アカテガニ(雄)



【生態】

本州東北地方から台湾や大陸まで分布します^{1) 2)}。海岸や川辺の岩場、土手、石垣、森林、湿地等に生息し、このような場所では比較的普通に見られます。また、河川や湿地に近い場所では内陸の標高の高い場所にも現れます。カニの中でも乾燥によく適応した種です。高所に登る習性もあり、生息地付近では春から秋にかけて人家に侵入したり、木によじ登ったりする姿も見られます。宮崎大学の校舎内でもたまに発見されます。

深さ数十 cm に達する巣穴を自分で掘ることもありますが、他個体や他種の掘った巣穴、または石の隙間をそのまま利用することもあります。人が近づくとそれらの隠れ家に逃げこみますが、特に決まった巣や縄張りを持たず、最も近い隠れ家に素早く隠れます。また、逃げきれない場合は鉗脚を大きく振り上げて威嚇行動を行います。冬は温度差の少ない巣穴の底にひそんで冬眠します。食性は雑食性で、動物の死骸から植物まで何でも食べます。時に共食いすることもあります。

カニは鰓呼吸をするので水がないと生きていけませんが、アカテガニは鰓呼吸した水を口から吐き出し、腹部の脇を伝わせて空気に触れさせ、脚のつけ根から再び体内に取り入れています。この水の循環ができるためわずかな水で生きていくことができ、むしろ水に長時間浸かっていると溺れて死んでしまうほどです。ただしこれを長く繰り返せば水が蒸発して少なくなり、さらに体液なども混じった水は粘りけが出てくるため、口から「泡を吹く」ことになります。こうなったら呼吸がうまく出来なくなります。泡を吹く前に水中に戻り、新しい水を取り込む必要があります³⁾。

雑食性で適度な水分があれば生きていけるため、成体の飼育は容易です。ただし幼生の成長には海水が必要で、飼育下の繁殖は難しいです。

【生活環】

普段は地上にいるアカテガニですが、7～8月にかけての大潮の日（満月と新月のとき）が近づくと、雌は卵を抱え海岸近くにきて満潮時期の日没を待ちます^{2) 3) 4)}。

暗くなると、雌が体の半分くらいまで海水に浸かって体を細かく震わせ、腹部を開閉させると同時に、卵の殻が破れてゾエア幼生が海中へ飛びだします。ゾエア幼生は体長2mm 足らずで、頭胸部が大きいエビのような形をしています。植物プランクトンなどを捕食しながら成長しますが、大部分は魚などに食べられてしまい、生き残るのはごくわずかです。ゾエア幼生は3～4週間の浮遊生活の間に5度の脱皮を経てメガロパ幼生という形態に変態します。メガロパ幼生は脚が長くなってカニらしくなっており、海底を歩くことができます。メガロパ幼生は10月頃に沿岸部に近づき、甲幅4mm ほどの小ガニへ変態し、変態を終えた個体から上陸します。

上陸後1～2年はオスメスとも全身が淡黄褐色ですが、成長するとともに鉗脚が赤く色づきます。2年目には繁殖に参加し、寿命は数年～十数年ほどとみられます。

引用文献

1) 干潟の生きもの図鑑 三浦知之

2) アカテガニ - Wikipedia

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%82%AB%E3%83%86%E3%82%AC%E3%83%8B>

3) ①アカテガニ members.jcom.home.ne.jp/k-kawashima/akategani-toumin-sanran.html

4) アカテガニの一生 http://www.geocities.jp/at_mocha/nandemo/test45.htm